

## 再評価個表

事業名	通常砂防事業	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	なかのたに (砂)中ノ谷川	事業箇所	伊予市 やくら 八倉
事業主旨	本溪流は、愛媛県伊予市八倉に位置し、被害想定区域に人家、公民館（避難所1箇所）、松山自動車道、県道が存在する土石流危険溪流（ランクⅠ）である。溪流沿いは玉石混じり砂礫により、やや急傾斜を形成し、山腹斜面には未固結の礫岩、転石が不安定な状態で分布しているため、砂防施設（砂防堰堤）を整備して土砂災害を未然に防止するものである。		
再評価の実施理由	「事業採択後5年が経過して継続中」の補助事業		

### 1. 地域の概要

<p>本溪流は、二級河川国近川に合流する、流域面積0.06km<sup>2</sup>、溪床勾配1/2.5の急勾配溪流である。地質は和泉層群の砂岩・泥岩を基盤岩とし、基盤岩の上は玉石混じり砂礫で構成されているが固結し礫岩状を呈する。溪流沿いは玉石混じり砂礫により、やや急傾斜を形成し、山腹斜面には未固結の礫岩、転石が不安定な状態で分布している地域である。</p> <p>下流の被害想定区域には、人家95戸、公民館2箇所（避難所1箇所）及び緊急輸送道路である松山自動車道600m、（主）伊予川内線477mが存在するが、本流域内には、土砂流出を防止するための砂防施設が整備されておらず、集中豪雨等による土砂災害の発生時には、保全対象に甚大な被害を生じる恐れがある。</p>
--

### 2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成28年度 <small>※平成31年度より交付金事業から補助事業へ移行</small>	完成予定（注）	令和6年度（見込み）
用地着手	平成30年度	工事着手	令和元年度
全体事業費	360百万円（うち用地費：20百万円）		
(1) 事業概要	透過型堰堤1基、溪流保全工27.5m、管理用道路325m		
(2) 事業経緯	土砂災害警戒区域等指定：平成26年3月 事業採択：平成28年度 砂防指定：平成31年3月 補助事業へ移行：平成31年度 工事着手：令和元年4月 本堤完成：令和5年3月		

（注）完成予定は、今後の予算の見通しや用地買収の進捗等の不確定要素があるため、現時点での見込みを示す。

### 3. 事業の必要性及び整備効果等

<b>(1)事業の必要性</b>	<p>本溪流は土石流危険溪流（ランクⅠ）であるが、土砂流出を防止するための砂防施設が整備されておらず、集中豪雨等による土砂災害の発生時には、保全対象に甚大な被害を生じる恐れがある。</p> <p>土砂災害警戒区域内には、人家、公民館（避難所1箇所）、松山自動車道、（主）伊予川内線があり、これら保全施設の土石流による被害軽減を図る必要がある。</p>
<b>(2)事業の整備効果</b>	<p>砂防施設を整備することで、年超過確率1/100の土石流に対して、人家95戸、公民館2箇所（避難所1箇所）及び緊急輸送道路である松山自動車道600m、（主）伊予川内線477m等の人命・財産が保全できる。</p>
<b>(3)事業を巡る社会経済情勢等の変化</b>	<p>愛媛県内では、平成16年に東予地区、平成30年に県内全域で土砂災害（西日本豪雨災害）による甚大な被害に見舞われている。</p> <p>当該地域においては、地元関係者からの強い要望により事業化されたもので、地元住民は協力的で、用地買収はすべて完了しており、早期完了の期待が大きい。</p>

### 4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

<p>（うち用地費） R4末投資事業費</p>	<p>（ 20百万円） [進捗率：100.0%] (事業費換算) 265百万円 [進捗率：73.6%] (事業費換算)</p>
<b>(1)事業の進捗状況</b>	<p>用地買収は、未施工の管理用道路も含めて、平成30年度にすべて完了し、令和4年度末に砂防堰堤（透過型堰堤）は完成している。</p> <p>西日本豪雨災害によって被害が大きかった地域に重点投資を実施していることから、本事業への年間投資額が削減され2年程度遅延した状況であるが概ね順調に進んでいる。</p>
<b>(2)これまでの整備効果</b>	<p>砂防堰堤（透過型堰堤）は完成しており、土石流による被害の軽減が図られている。</p>
<b>(3)今後の事業進捗の見込み</b>	<p>事業進捗率は、令和4年度末において74%である。</p> <p>令和5年度に溪流保全工を完成させる予定であり、令和6年度に管理用道路を完成させることで、全施設が完成予定である。</p>

## 5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

### （1）費用便益比

C：総費用＝381百万円

- ・建設費 379百万円
- ・維持管理費 2百万円

B：総便益＝6,094百万円

- ・（内容等については本文に記載）

$B/C = 6,094 / 381 = 15.98$

## 6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

堰堤施工時の残土は、他工事の盛土材として搬出した。今後も、工事を進める上で、現場発生土の流用について、近隣の工事箇所と調整を図り、運搬費や処分費の低減を図るなど、コスト縮減に努める。

## 7. その他

透過型堰堤を採用することで、少ない地形改変で土石流の捕捉機能を効果的に発揮できる。同時に、平時の溪流環境（溪床の連続性）の保全機能を有するため、動植物の生息域の遮断防止や下流河川への無害な土砂供給による河床低下防止効果も期待できる。

## 8. 対応方針（素案）

- ①土石流危険溪流（ランクⅠ）である。現在、砂防堰堤が完成し、土石流の捕捉は可能であるが、管理型堰堤であるため、管理用道路の整備が必要である。
  - ②地元からの砂防施設の設置要望が強く、地元協力体制が整っている。（用地買収はすべて完了）
  - ③費用便益費は『 $B/C = 15.98$ 』であり、事業効果が十分に見込める。
- 以上を総合的に判断し、本事業は『継続』としたい。